

# 札幌の先生 小樽港の歴史を学ぶ 教育副読本に掲載!



船の定員上2班に分かれ港内見学へ

座学終了後、船による港内見学が行われ、職員から説明を受けながら、海上から港湾施設を確認し、ビデオやカメラに収めていました。

7月28日(木)小樽港湾事務所で札幌市社会科教育連盟の夏の研修会が行われました。平成23年度より札幌市小学4年生の社会科副読本に北海道遺産である「小樽港北防波堤」が取り入れられ、より良い授業にするために連盟から要望があり、札幌市内小学校の先生約40人参加のもと、座学と港内見学が実施されました。

座学では「小樽築港の歴史背景と状況」と題して、事務所職員が日本初の外洋型防波堤であり、100年を経て今もなお現役で機能する小樽港北防波堤の工事概要を中心に説明しました。



北海道遺産でもある「北防波堤」見学



職員の説明を受け、カメラに収める先生



港側から岸壁等を見学、背景はウイングベイ

資料館でも模型や写真等を見ながら職員から説明を受け、熱心に撮影やメモを取っていました。また、質問や確認も多数あり小樽港についてよく知っていただくことが出来たと思います。



防波堤の模型を用いての説明



消波ブロックについて説明しています

参加した先生の一人からは、「北海道開拓や日本の港湾の歴史、廣井勇博士など今まで知らなかったことが学べて、大変興味深かった。是非、子供達にこのことを伝えていきたい。大変良い内容でした。」と感想を頂きました。ありがとうございました。



日本初の小樽港斜路式ケーソン製作台の模型を使用して、港湾工事を説明しています



これは廣井勇（初代小樽築港事務所長）が作った北防波堤斜塊の実物です  
記念撮影ではなく、大きさ比較対象撮影です

平成23年度より  
札幌市小学校社会科副読本(4年)に  
掲載されました



小樽市小学校社会科副読本も同様に掲載中、表紙を飾る

